

材木を運ぶ子どもたち=自然体験共学センター提供



元気な森の子になあれ

廃校になった福井市中手町の旧美山町立上味見小学校の校舎を活用し、子どもたちに自然との触れ合いの場を提供するNPO自然体験共学センター(辻一憲理事長)が13、14の両日、同地で「森の子自然学校」を開いた。

京都府と県内から6人の小学生が参加して校舎の裏山にある木の周囲に、家を建てた。参加者の一人で福井市東郷の小学3年生、油谷晃行君(8)は「家でファミコンをするよりも、外でみんなで遊ぶ

楽しくソーラー、ハウス作り

京都と県内の小中学生

る「ソーラー・ハウスプロジェクト」に取り組んだ。NPO活動に参加する大学生の手を

借りて、子どもたちは材料の角材や倒木を運び、両日でまず家の土台部分を組み立てた。

美山の廃校活用

う。

同センターは次回以降の参加者を募集している。問い合わせは、センター事務所(07797・3・2011)。

ほうが楽しい」と話し、精力的に作業に加わっていた。来月に、再度学校を開き、残る自然部分を完成させる。

同校は過疎化による児童の減少で01年3月に廃校。自然の中で子どもを育てる活動を続ける同センターが05年1月から借り受け、校舎を利用して自然体験キャンプなどを開いている。近隣の住民からは

自然学校で体験

「自然教室によって子どもたちが上味見に戻ってきた」「学校で子どもが遊ぶ姿を見るのは楽しい」などの声が、センターに届いているとい



発行所: 大阪市北区梅田3丁目4番5号 〒530-8251 電話(06)6345-1551
郵便振替口座 00920-0-450
毎日新聞大阪本社
© 每日新聞社 2006